

## 2015年度 東京 SJCD 第1回例会・懇親会のご案内

陽春の候、会員の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。  
さて来たる5月31日に開催されます2015年度、東京 SJCD 第1回例会につきご案内申し上げます。東京 SJCD は本年度より原田会長が就任され、新たな一歩を踏み出しました。新会長のもと執行部一同、会員皆様の目線を第一に考え、より充実した会の運営に尽力してまいります。そして今後の東京 SJCD 例会は、原田新会長の意向により、新たな展開、試みを取り入れていく予定でおります。特に、発表重視となっていたケースプレゼンテーションを議論中心へと変更・若手や未発表メンバーのケースおよび会員のディスカッション参加機会の拡大・外来講師のインサースビスだけでなく現歯科界をリードする SJCD メンバーによる講演の増加、を新たな取り組みとして実現していきます。是非ご期待頂き、合わせて皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。第1回目となる今回は、インサースビスとしては今回初めて寺西邦彦先生にご登壇いただき、27年に及ぶインプラント治療の推移と長期症例の予後、そして最新のトピックを語っていただきます。そして午後からは東京 SJCD の理事と会員、2名の先生によるケースプレゼンテーションを行います。  
また例会終了後、本年も懇親会が行われます。是非、皆様お誘い合わせの上ご参加頂けますようお願い申し上げます。

**日時** 2015年5月31日(日) 受付開始 9:30 / 開演 10:00~17:30

**会場** 都市センターホテル/コスモスホール 3F

**懇親会会場** 17:45~ / 都市センターホテル オリオン 5F

**所在地** 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-1 **TEL** 03(3265)8211

### -講演- インサースビストレーニング

「Osseointegrated implant 27年間の推移と現状多数歯欠損症例におけるインプラント上部構造選択のガイドライン&低侵襲インプラント治療の実践」

寺西歯科医院 寺西邦彦

### -ケースプレゼンテーション-

「Version Tooth に考慮し咬合再構成を行った症例」

岩本町デンタルクリニック

新藤有道先生

「咬合崩壊症例にインプラントを活用して咬合再構成したケース」

若泉歯科医院

野平政哉先生

寺西邦彦

略歴) 1954年 東京都に生まれる。

1967年 私立武蔵中学入学

1973年 私立武蔵高校卒業

1973年 日本大学歯学部入学

1979年 日本大学歯学部卒業

1980年 阿部晴彦先生に師事、東京歯科研究会にて阿部晴彦総義歯セミナーのインストラクター(1981年~1987年)

1982年 南カリフォルニア大学歯学部 南カリフォルニア大学歯学部 C.E. Program (Special curriculum in Prosthodontics & Periodontics) に留学

Dr. Bernard Levin, Dr. Max B. Sosin, Dr. Raymond L. Kim らに師事。

Dr. Bernard Levin, Dr. Max B. Sosin, Dr. Raymond L. Kim らに師事。

1983年 東京都港区赤坂に開業、現在に至る。

1994年~2001年 ノーベル・バイオケア・ジャパン認定インストラクター  
ブローネマルク・システム・インプラント Step By Step コース主催

2002年~O.S.I. 東京インプラントセミナー主催

Astra Tech インプラント認定インストラクター

講演 (国内) : 1984年より現在まで全国各地にて約 500 回以上の講演を行う。

講演 (海外) :

1993年 FDI 81<sup>st</sup> World Dental Congress (Gothenburg, Sweden)

2006年 Astra Tech World Congress (New York, USA)

2007年 Beijing Capital University School of Stomatology (Beijing, China)

2008年 Shanghai Jiao Tong University College of Stomatology (Shanghai, China)

2009年 Beijing University School of Stomatology (Beijing, China)

2011年 ICOI World Congress XXVIII (Seoul, Korea)

2012年 WCUPS 2012 (Jeju, Korea)

2013年 WCUPS 2013 (Gyeongju, Korea)

2014年 AO Charter chapter UK (London, UK)

主な著書 : 「総義歯に強くなる本」、「ビジュアルセミナー臨床咬合学入門」

「ビジュアルセミナー臨床総義歯学入門」(クインテッセンス出版)

「臨床歯周補綴Ⅱマニュアル&クリニック」(第一歯科出版)

「臨床歯周補綴Ⅲ」(第一歯科出版)

「無歯顎補綴に強くなる本 上下」(クインテッセンス出版)

「アストラテックインプラントのすべて」(クインテッセンス出版)

その他文献多数

日本顎咬合学会会員(指導医)、S. J. C. D. International 常任理事

スタディーグループ赤坂会顧問、Academy of Osseointegration 正会員

OSI 東京主幹

日本補綴歯科学会、日本歯周病学会、日本矯正歯科学会会員

The World Academy of Ultrasonic Piezoelectric Bone Surgery Chairman fellowship  
Committee

# 「Osseointegrated implant 27年間の推移と現状多数歯欠損症例におけるインプラント上部構造選択のガイドライン&低侵襲インプラント治療の実践」

寺西邦彦

私が Osseointegrated implant の臨床応用を開始したのは、1988 年で、27 年前になる。

そして、東京 SJCD において初めて Osseointegrated implant をテーマに例会を行ったのは 1990 年ころで、その時の基調講演が小宮山弥太郎先生で会員発表を私が担当したのを記憶している。当時 Osseointegrated implant はまだ一般的な治療法ではなかったためか、多くの方から長期性はあるのか？トラブルはないのか？等、多くの質問を受けたような気がする。その後、多くのインプラントシステムにおいて更なる開発が行われ現在に至るが、現代においてはグローバルスタンダードにおいて、Osseointegrated implant は欠損補綴の治療オプションの第一選択となってきたといっても過言ではないだろう。

昨今、日本においてはインプラント治療におけるネガティブキャンペーン等があり、インプラント治療が減少しているとも聞くが、現実には多くの患者が安心そして安全なインプラント治療を望んでいることは疑いのない事実である。さらには、インプラント埋入不可能部位への対応、そして良好な審美性の獲得のための、骨造成等の外科手術が増加してきているようである。一方患者サイドからは治療期間の短縮や外科的侵襲の軽減といった要求が高まってきているのも事実である。これら相反するニーズに答えるのは容易なことではないが、臨床医として可能な限り患者ニーズには答えたいと思っている。

そこで今回は、「Osseointegrated implant 27年間の推移と現状（多数歯欠損症例におけるインプラント上部構造選択のガイドライン&低侵襲インプラント治療の実践）」といったテーマで、長期経過例における力学的トラブルそして最近のトピックである Peri-implantitis に対する対応等に関して、Photofunctionalization をも含めて私見を述べさせていただきたいと思う。

新藤有道（しんどう ありみち）

1998年日本大学松戸歯学部卒業

2004年岩本町デンタルクリニック開設

2006年～2008年 スタディーグループ赤坂会 会長

2009年～ 東京 SJCD 理事

所属

東京 S.J.C.D.（理事）

スタディーグループ赤坂会（理事）

T's Forum brush up meeting（会員）

O.S.I. Study Club（副会長）

Osseointegration Study Club of Japan（理事）

日本顎咬合学会（認定医）

タイトル

『 Version Tooth に考慮し咬合再構成を行った症例 』

抄録

SJCD のチャート票には、” Version Tooth（位置異状歯）”という項目があります。

萌出時の異常によるものであったり、萌出後の移動が原因であったり、歯牙の位置が正常とは異なることにより、力学的問題や審美的問題や清掃性の問題などを引き起こします。その当該歯だけでなく対合歯や隣接歯の歯質や歯周組織や修復物、または間接的に離れた位置歯牙や顎関節にも為害性を引き起こしていることがあります。

ただ Version Tooth の変位の度合いによっては許容できるものもあったり、大幅な改善を余儀なくされることもあります。度合いによっては矯正治療が必要であったり、補綴物や外科処置などで修正できるものもあります。

今回は Version Tooth に考慮し咬合再構成を行った症例を提示させて頂き、皆様と多くのディスカッションを行いたいと考えています。

若泉歯科医院 野平政哉

略歴 1989 鶴見大学歯学部卒業  
横浜市 野村歯科医院 勤務  
2000 横浜市 若泉歯科医院 開設

タイトル 『咬合崩壊症例にインプラントを活用して咬合再構成したケース』

咬合崩壊を起こしている患者さんの口腔内を診ると、咬合崩壊の原因がいろいろと推測できます。元々の骨格や歯列における不正咬合から何かの問題が引き起こされたが、原因を改善されないまま、対処療法がなされ、またそれが引き金になり、違うところに問題ができ、その繰り返しにより崩壊していく。咬合崩壊を防ぐためには SJCD で学んできた、包括的な診査・診断により、元々あった不正な要素を見極め、力学的に安定した咬合の確立が必要である。ましてやインプラントを用いる為にはそういった配慮は必須である。今回は、咬合崩壊症例にインプラントを活用して咬合再構成した症例を提示させて頂き、皆様と様々なディスカッションができればありがたいと思っています。